

鹿門岡千仞の生涯より

開成丸江戸廻航

安政六年三月、藩の軍艦開成丸が江戸に現れた。これは、小野寺鳳谷や三浦乾也に命じて、軍艦一隻を寒風沢奥山に於いて造らしむ。艦の大きき二十丈、一に洋製艦に横す。巳未の三月航して江戸海に至る。藩の大夫但木君、臣様に命じてその盛事を紀せしむ。君見ずや、藩祖当年妖教を憂え、南蛮を蕩清して自ら効を期す。天の時至らず時に偃武す。南伐を申請して敢えて報いられず。．．．盟主志を為すあり。豈浮議の累を為すあらん。果して見る。突兀二十丈、巍然たる鉄城目前に起つ。右は、軍艦開成丸の偉容に接した千仞の声である。開成丸は安政四年七月に進水したものであり、この度の江戸湾入りには、養賢堂学田米を積載したと伝えられている。